

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	胃癌の予後因子に関する研究
	研究目的	胃癌は本邦において 1960 年をピークに減少傾向にあるが、依然として死亡者数・罹患率ともに高い癌であり、2010 年の統計では悪性腫瘍での死亡数は 2 位(男性 2 位, 女性 1 位), 罹患率は 1 位(男性 1 位, 女性 2 位)である。胃癌治療の成績向上のためには、予後に関わる危険因子の同定が必要である。過去に様々な予後因子の解析が行われてきたが、1000 例以下の報告が多数を占め、3000 例以上の大規模なデータを用いた研究はごくわずかである。このため、外科治療学関連施設で収集された 4500 例のデータを用いて胃癌の臨床病理学的病態が明らかとなれば、今後の治療開発に大変有用であると考えられる。
	研究期間	西暦 2016 年 7 月 14 日 ~ 西暦 2020 年 6 月 30 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	横浜市立大学外科治療学 教授 利野 靖
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科胃食道
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	横浜市立大学附属病院 外科治療学 利野靖 神奈川県立がんセンター 消化器外科 吉川貴己 済生会横浜市南部病院 外科 横浜市立大学附属病院 外科治療学 藤沢湘南台病院 外科 上白根病院 外科 国際医療福祉大学熱海病院 外科